

令和7年度 第3四半期（10月～12月）

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

調査概要

- 調査対象
(1)対象地区：豊橋市内 321 社
(2)回答企業数：149 社 (46.4%)
- 調査期間
令和7年 10月～12月
- 調査方法
郵送（ファクシミリにて返信）、Google Form
- 回答企業の内訳
製造業 56・建設業 27・卸売業 16
小売業 21・運輸業 13・サービス業 16

全産業業況 DI 値は前回調査から 3.8 ポイント悪化、
令和6年度第3四半期からは 2.8 ポイント悪化

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲7.6（前期比▲3.8、
前年同期比▲2.8）、来期見通し（令和8年1月～3
月）については▲8.6（当期比▲1.0）となった。

前回調査ではやや持ち直しの傾向が見られたが、
今期は悪化に転じた。製造業で前期比マイナス、建
設業・小売業・サービス業では大きくマイナスとな
った。一部では価格交渉がうまくいっているとの明
るい声もあったが、多くの業種で、需要の停滞、人
件費の増加、原材料価格・諸経費の高騰、採用難・
人手不足を不安視する回答があった。

設備投資は、「実施した」との回答が 57.7（前期
比+17.3、前年同期比+15.9）、来期に設備投資を
「計画している」との回答は 47.0（当期比▲10.7）
となった。

■製造業

業況 DI 値は▲12.7（前期比▲0.8、前年同期比▲
3.6）、来期の見通しについては▲16.7（当期比▲
4.0）となった。

価格交渉がうまくいっている、IT 業界は好調で
あるとの声があったが、全体的には需要の停滞を指
摘する声、人件費をはじめとする諸経費の上昇が利
益を圧迫しているとの回答が多かった。鉄工業では
中国市場の景気悪化を指摘する声、食品製造業では
原材料価格の高騰を懸念する声が多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「原
材料価格の上昇」、「需要の停滞」が主にあげられ
る。

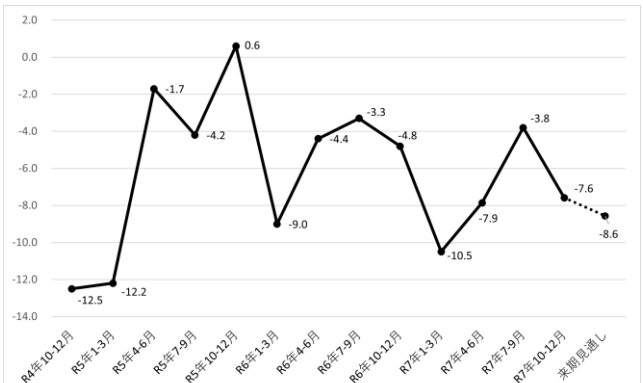
■建設業

業況 DI 値は▲3.7（前期比▲19.1、前年同期比▲
3.7）、来期の見通しについては±0.0（当期比+
3.7）となった。

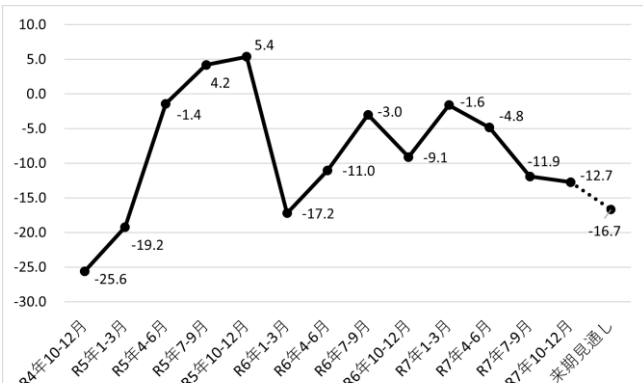
防災・減災関連やインフラ再整備分野は堅調、官
民ともに受注は好調との声がある一方、技術者の高
齢化や人手不足を懸念材料としてあげる声、資材価
格や光熱費の上昇により採算が厳しい、工期管理が
難しいとの声が多かった。

経営上の問題点としては、「従業員・技術者の確
保難」、「原材料価格の高騰」、「人件費の増加」が主
にあげられる。

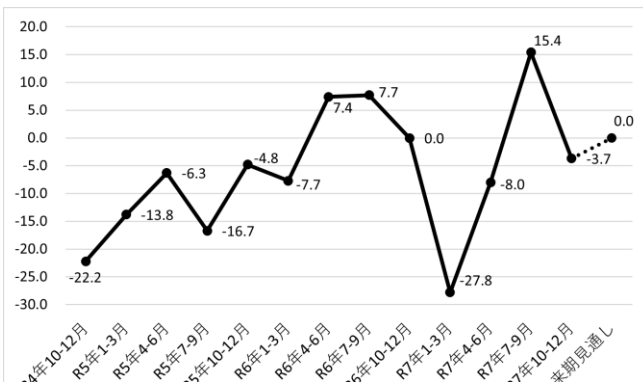
全業種 DI 値の推移



製造業 DI 値の推移



建設業 DI 値の推移



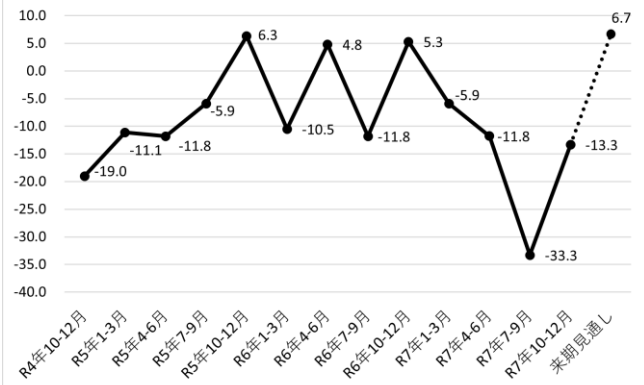
■卸売業

業況 DI 値は▲13.3（前期比+20.0、前年同期比▲18.6）、来期の見通しについては+6.7（当期比+20.0）となった。

電設資材卸売業では価格転嫁がうまくいっている、食品卸売業では新規取引先を開拓できた、引き合いは旺盛である等の明るい声があった。一方で、仕入価格の高騰、買替スパンの長期化、金利引き上げや人件費増加を懸念する声もあった。

経営上の問題点としては、「原材料価格の高騰」が前回の2位からトップとなり、次いで「人件費の増加」、「需要の停滞」があげられる。

卸売業 DI 値の推移



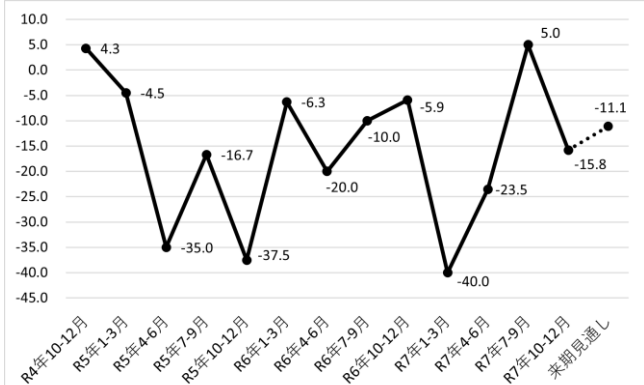
■小売業

業況 DI 値は▲15.8（前期比▲20.8、前年同期比▲9.9）、来期の見通しについては▲11.1（当期比+4.7）となった。

衣料品販売店では季節商品の販売が好調との声がある一方、食品分野では仕入価格の上昇や量販店との競合激化、事務機器小売業ではメーカーのシステムトラブルを懸念する声が聞かれた。加えて、全体的に人手不足や従業員の高齢化を問題視する回答が多かった。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「需要の停滞」がトップ、次いで「従業員・技術者の確保難」、「人件費以外の経費の増加」があげられる。

小売業 DI 値の推移



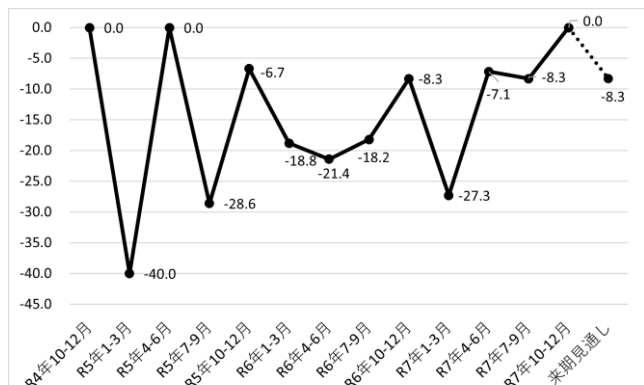
■運輸業

業況 DI 値は±0.0（前期比+8.3、前年同期比+8.3）、来期の見通しについては▲8.3（当期比▲8.3）となった。

運送量がある程度回復傾向した、従業員を採用できた、料金改定に顧客の理解が得られているとの声が聞かれた。一方で、トラックの修繕費や法改正対策等の諸経費が上昇している、なかなか賃上げできない状況であるとの声もあった。

経営上の問題点としては、「人件費以外の経費の増加」がトップとなり、次いで「人件費の増加」、「従業員・技術者の確保難」があげられる。

運輸業 DI 値の推移



■サービス業

業況 DI 値は+12.5（前期比▲16.1、前年同期比▲7.5）、来期の見通しについては▲6.7（当期比▲19.2）となった。

飲食店では、団体観光客の利用が減少した、旅行会社では業界全体が厳しい中、競争が激化しているとの回答があった。全体的に、人件費の増加が利益を圧迫している、需要はあるが人手不足のため対応できていないとの声が目立った。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」がトップ、次いで「従業員・技術者の確保難」、「原材料価格の高騰」があげられる。

サービス業 DI 値の推移

